

〈九州支部大分事務所〉
学生企画による
「おおいた学生祭典」と地域連携

おおいた学生祭典は、大学コンソーシアムおおいた加盟の八つの高等教育機関に在籍する学生達が自ら企画・実施する合同学生祭典である。二回目となる今年には、「絆」地域との交流」をテーマに、一〇月七日、中島記念国際交流財団の助成を受け実施された。

◆大学コンソーシアムおおいたと学生祭典

大分県は、一二万人の地域に世界八五の国・地域から来た二九〇〇人強の留学生在が学び暮らす、対人口比では東京都に次ぐ第二位の留学生在大県である。大学コンソーシアムおおいたは、この地域的特性を活かし世界に開かれた活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成一六年九月、本機構の支援の下、学・産・官が主体となって設置した特定非営利活動法人である。

実施事業の中心は留学生支援関連事業であるが、この学生祭典は、日本人学生と外国人留学生在が、学生実行委員会

を結成し互いに協働して作り上げていく事業である。時間もエネルギーも工夫も忍耐も要する一大イベントであり、地域交流事業であるとともに人材育成事業としても位置づけられている。

◆学生祭典における地域連携の試み

昨年の初回開催では、学生自身が地理的にも心理的にも距離感のある大学を乗り越えようと「学生力結集」を目標にして実施された。今年、新たな顔ぶれとなった実行委員メンバーは、昨年の成果を踏まえ、冒頭に紹介したテーマが示すように、「地域との連携」を模索して企画した（写真1）。

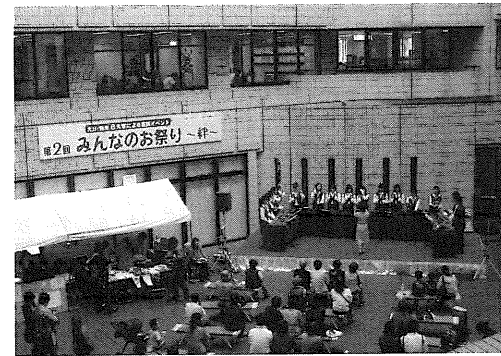


写真1 パフォーマンス第二会場 屋外仮設ステージ

まず、学生祭典開催の日と場

所は、県都大分市が国際化推進五カ年計画に基づき今年から実施する「おおいた国際協力啓発週間 2006」のオープニングイベントと同じとし、市の文化スポーツ交流施設「コンパルホール」の三か所で開催した。また、市が他会場で実施している生活文化展と連携したスタンブラリーや抽選会で、人の流れを回遊させ賑わいを増す企画も行った。

また、学生祭ではお馴染みメニューとなる「ステージパフォーマンス」と「屋台」であるが、ここにも地域連携が見られた。

ステージパフォーマンスでは、留学生在が地域で教えている子どもたちによって演舞も披露された（写真2）。

また、大分市主催の国際協力啓発週間オープニングイベントの文

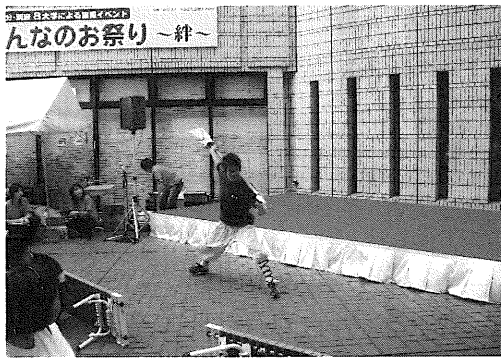


写真2 留学生から少林寺を習っている地元少年の演舞

化ホール舞台には、ベトナム民族舞踊と嵩山少林寺拳演舞の留学生在が友情出演した。さらに、畳敷きの集会所では一転、和風で、茶道部によるお点前披露、邦楽、落語が催された。

屋台ではJA大分中央会と共同して大分郷土料理「だんご汁」が出店した。また、ゴミ分別センターを設置し、容器や食べ残しの分別指導にも力を入れ、大分県ごみゼロおおいた推進室とNPO等で構成される「イベントゴミ減量研究会」と共同で、ゴミの分別状況を調査した。なお、屋台には、留学生在が多いという地域特性を活かしてチヂミ、茶卵、揚げバナナ、チリコンカン、インドカレー、プラウニーといった国際メニューが出店したのは言うまでもない。

◆今後の課題

学生祭典は、企画準備してきた学生を含め当日運営スタッフ学生七四人、ステージ出演学生一七団体一二三人、来場者も約一五〇〇人と、昨年に引き続き大盛況であった。同時に、学生実行委員の活動継続、日本人学生と留学生的の充分な協働といった点は、今回もまた課題として挙げられる。しかし、達成感あふれた留学生的の顔を見ると、今後、回を重ねるにつれ解消されるものと期待している。